

**interviewer**

マルソーさんがドゥクルーと袂を分かった理由のひとつとして、彼がパントマイムを独自の芸術とみなしたのに対して、マルソーさんはそれを演劇の様式のひとつとみなした、ということがあるとお思いですか？

**MARCEL MARCEAU**

そのとおりです。ドゥクルーはずっと基礎理論の研究者でした。いっぽうの私はジャン・ルイ・バローに似ていましたね。バローは観客の獲得法を心得ていた人でしたが、ドゥクルーは観客に対して好意的に接する人ではありませんでした。彼は理論家であり、技法家であり、没个性的なところがありましたが、ずいぶん見栄えの立派な人でした。しかし、人はなかなか、動きだけから深い感銘を覚えてくれることはなかったのです。そこで私は、チャップリンがストーリーで観客を感動させた方法にならおうとしました。

中略～

おわかりですか？ドゥクルーは二年前に93歳で亡くなりました。人に教え続けてきた彼の人生は偉大なものでした。彼のことは世界中のマイム役者によって語り継がれていくでしょう。たとえそれがまだ若い役者であったとしてもです。ただ、観客がドゥクルーを懐かしむということはありません。彼は劇場でのキャリアとは無縁だったからです。

**P.82 短期集中連載 特別インタビュー**

